

オプトアウト登録用紙

① 研究課題名

急速進行性糸球体腎炎の全国症例疫学調査（2016-2019 年度）

② 研究母体

筑波大学附属病院 医学医療系 臨床医学域 腎臓内科

③ 研究目的

急速進行性糸球体腎炎は急速に腎臓の働きが失われ、個人差はありますが、しばしば数ヶ月以内に腎不全となり透析療法が必要となることの多い最も重篤な糸球体腎炎であると言われています。また、しばしば腎臓だけでなく、肺やその他全身臓器にも炎症が及び、肺出血や肺炎など生命に危険を及ぼす障害を併発してくることが言われています。この病気は細い血管が鞠状にかたまった腎臓の糸球体と言われる場所の血管壁に炎症が起こることにより発症します。その結果、尿を産生する元となる腎臓の糸球体に強い炎症が起こり、糸球体そのものが壊れ、機能がなくなり、体に貯まった老廃物や水分の排泄が低下していきます。ただし、この病気は比較的まれな病気であり、この病気により日本全国でわずか年間 1,500 人前後の方が病院を受診されているに過ぎません。従って国内の各施設単独では十分な症例の調査が進まないため、この病気の予後や治療法に関してのまとまった統計は取りにくい状況があります。これまでの調査から急速進行性糸球体腎炎は国や人種によりその病型の頻度が異なることが分かっています。さらに病型によってこの病気にかかる年代が明らかに異なり、その治療法も異なります。従って我が国独自の調査をし、その結果を診療ガイドラインとしてまとめ、全国の同じ病気にかかる（かかっている）患者様の治療に役立てることを目的としています。

④ 利用・または提供する資料・情報の項目

急速進行性糸球体腎炎の臨床疫学情報：発症時の年齢、性別、原因疾患、肺病変の有無、診断時の腎機能（血清クレアチニン値）、ヘモグロビン濃度、血清 CRP 値、血清 MPO-ANCA 値、PR 3-ANCA 値、抗 GBM 抗体値、初期あるいは全経過中の治療内容（副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤）、全経過中のアフェレシス療法（有無、種類）、透析の有無（離脱、維持透析）、再発/再燃の有無、転帰、死亡の場合には死因、最終血清クレアチニン値

⑤ 研究方法

全国の医療機関からアンケート形式で回答を集めます。

⑥ 研究期間

実施許可後、アンケート回収締め切りを 2023 年 3 月 31 日とし、研究終了は 2025 年 3 月 31 日を予定しています。

⑦ 資料・情報の管理について責任を有する者（研究責任者・研究代表者）

所属 浜田医療センター 腎臓内科

氏名 岩下裕

連絡先 〒697-8511 島根県浜田市浅井町 777-12

Tel 0855-25-0505（代表）

所属 筑波大学附属病院 腎臓内科

氏名 山縣邦弘

連絡先 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

Tel 029-853-3613（腎臓内科外来 9-17時）

上記研究に賛同されない患者様は上記浜田医療センターの連絡先までご連絡ください。よろしくお願いたします。